

**最近の情勢を踏まえた入札契約制度上の対応について  
(契約制限価格事前公表取り止め、工事入札不落札対策)**

阪神高速道路株式会社では、工事契約の不調・不落札が発生している状況（別紙参照）を踏まえ、標準的な積算金額と当該現場の施工に係る見積り金額に乖離が生じる可能性が考えられる特殊な条件下の工事等について、競争参加申請者に技術提案とそれに基づく工事費見積書の提出を求め、その内容を審査し妥当性が確認できた内訳項目を当社の予定価格に反映させる方式（見積書審査方式）を試行中ですが、今般、最近の情勢を踏まえ、平成 20 年 10 月 1 日以降公告工事において、さらに下記の入札契約制度上の対応を行うことと致しました。

### 1. 予定価格を契約制限価格に名称変更

工事入札の不調・不落札対策として新たな入札契約制度を試行導入することに伴いまして、従来の「予定価格」を「契約制限価格」に名称変更します。

### 2. 契約制限価格事前公表の取りやめ

当社では、これまで特別簡易型以外の総合評価落札方式を適用する工事について、契約制限価格事前公表を試行して参りましたが、事前公表についてはダンピング受注の助長という弊害が指摘されている一方、事前公表後の入札辞退による入札不調あるいは入札価格の高どまり等の問題も発生している最近の情勢を踏まえ、**契約制限価格の事前公表を取りやめることとします。**

### 3. 契約制限価格を上回っても契約できる新たな入札契約制度の試行導入

現在「見積書審査方式」を試行中ですが、特殊な条件下や技術的難易度の高い工事については不調・不落札の可能性も想定されます。このような場合に再公告を行う時間的猶予がない工事において、入札価格が契約制限価格を上回っても契約できる新たな入札契約制度として「**契約目安価格による総合評価落札方式**」を試行的に導入します。

この方式は、契約制限価格（設計金額）を契約目安価格と読み替え、**契約目安価格を上回る入札価格に対しても価格評価点  $(100 \times (1 - \text{入札価格} / \text{契約目安価格}) \times \beta$** 、 $\beta$ ：補正係数）の評価対象（ただし、上回った場合はマイナス評価）とすることにより、技術評価点と合わせた総合評価で落札予定者を決定するものです。

契約目安価格を上回る入札価格に対して価格評価点の**評価対象とする上限価格**は、工事の特殊性・難易度等を勘案して**適切に設定**するものとします。また、落札予定者の入札価格が契約目安価格を上回る場合は、価格協議において妥当性を確認するとともに、場合によっては現場実態との整合も確認するものとします。

本方式を適用する工事については、入札公告において「**契約目安価格による総合評価落札方式の試行工事**」として募集いたします。詳細については入札公告・入札説明書を参照して下さい。

## 平成19年度入札不調・不落札工事件数

種別	工種	不落札件数	不調件数		備考
			応募なし	入札辞退	
建設	土木	1			
	土木・橋梁（メタル）		1		異工種 J V
	橋梁（メタル）		1		
	舗装			1	
	建築	1			
	機械器具設置		1		
	計	2	3	1	
改築・ 維持補修	土木		1		
	橋梁（メタル）	7		4	
	橋梁（P C）		1		
	舗装	1			
	建築		1	1	
	維持修繕	3	1		
	計	11	4	5	
総計	13	7	6		